

K S K S

No. 109 20. 10. 27

# ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会  
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5  
TEL/FAX 0742-41-6039

定価 1部50円  
年間 300円

## ◆法人からの報告

「安心と誇りを持って働ける仕組み作りとは」  
理事 庄野千恵子 … 1

## ◆News

◇天理よろづ相談所白川分院に新相談員  
◇コロナ禍で考える支援 … 2

## ◆Reports

◇Zoomで職員研修  
◇防災訓練と備品チェックリスト … 3

## ◆Reports

さわやぎ/きらく舎 … 4  
ぼすと/歩っと地活 … 5  
こもれび就労/D-PORT … 6  
こもれび生活訓練 … 7  
後援会決算・予算 … 8

## ◆Thanks

後援会費納入者 … 8

## 安心と誇りを持って働ける 仕組み作りとは ～コロナ禍の危機管理から～

猛暑が収まると急な冷え込みという気温の急降下の中、稲穂が頭を垂れ風に揺れながら収穫の時を待つ季節になりました。

今年度前半を振り返るとコロナのことが頭から離れる時がなかったように思います。常勤職員全員が集まる会議や、法人運営に関わって頂いている皆さんと職員が集まる「ゆいの会のつどい」も中止しました。職員研修もWebを活用しました。理事会や評議員会も3月から書面表決方式をとっています。小規模法人の利点で皆が顔を突き合わせていたことができず、不自由を感じます。

事業活動では、通所型支援では利用を控える人もいましたが、訪問型支援では不安や孤立感から一層の支援を必要とされたり、訪問支援あつての生活である人もいて、訪問回数を減らすことはできません。職員は不安を抱えながらも対策を講じて日々の業務を続けています。相談業務も全く減りません。控えることができる相談内容ではないのでしょうか。

新型コロナ感染対策については、危機管理としての指揮命令系統に明確な仕組みが求められます。

対応する現場の混乱を減らし、動きやすくする仕組み作りです。職員の健康も利用者への支



援も考えなければなりません。当初は臨時の常勤理事会で対策を講じましたが、新たに少人数の対策会議を設置しました。小規模法人でも情報や状況を集約すること、方針や役割分担の指示がうまく流れていかない難しさに気づきました。当法人では常々、職員は一人ひとり考えを持って業務にあたり、組織の運営にも携わる仕組みを志向してきました。「船頭多くして船山に登る」ように、リーダーが多くて、まとまらなければ船はあらぬ方向に進むかもしれません。しかし、他者の意見を聴く耳を持つリーダーたちであれば「三人寄れば文殊の知恵」を引き出し、進めるのではないのでしょうか。職員がそれぞれの業務を安心して、誇りを持って遂行できる仕組み作りと、そのことが活かせる危機管理の仕組み作りが求められています。

秋冬に感染が拡大しないことを願い、後半期もコロナ感染対策を講じつつ、法人の課題としている、高齢利用者の方への支援や長期利用の実態、通所型サービスの今後、などについても考えてまいります。  
(庄野千恵子)

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山

News

## 天理よろづ相談所病院に

### 新しい相談員が配属されました！！

今年度から、天理よろづ相談所病院白川分院B棟に新たに精神保健福祉相談員が配属されました。新しい相談員は眞野(まの)かなえさんです。

眞野さんは、「これから患者さんやご家族と関わっていく過程で、『伝える力』を更に磨いていきたい」と話します。退院後の生活を組み立てる上で、患者さんやご家族に様々な制度やサービスを説明する場面が出てきます。内容を説明するだけでなく、例えば地域の福祉サービスにつなぐ場合には、事業所の個性や支援内容、そこで支援にあたっているスタッフの人柄などプラスαの情報も収集した上で「相手に分かりやすく伝える」ということを意識していきたいそうです。

また、精神科ソーシャルワーカーとして「医療

に関する知識も付けていきたい」と話します。身に付けた知識を土台として、誰もが抱えている生きづらさに寄り添い、退院後にその人らしい生活を送ってもらえるように、その人の強みや様々な社会資源をつかってサポートをしていきたいとのこと。

同病院では、日々の相談業務の他、地域とのつながりや協力体制を強化していくような支援を大事にしています。(梶谷優)



◀先輩方から良い所をたくさん吸収したいです

Reports

### コロナ禍で考える

## 平常時からのつながり作り

通所事業所では本来、家に閉じこもらないように、人との交流を持てるようにという意識で支援しています。しかし、コロナによる緊急事態宣言の前後から「本当は行きたいけど、道中のバスや電車が不安」「高齢の家族がいるので自分が感染源になったら…」などの不安から、通所を控えたり短時間利用にしたりする人もいました。ゆいの会は事業所を閉めずに、できる支援を模索してきましたが、「在宅支援」を選択せざるを得なくなった人もいます。生活介護や就労継続B型では市町村がやむを得ないと判断した場合に、1日2回以上の電話、スタッフと自宅での過ごし方を共有する等を条件に「在宅支援」での報酬算定が認められました。

「在宅支援」を利用した人は「電話が朝と夕方にあることで、生活リズムを保てたり、決まった作業をするやる気が出た」と言います。「家族の意向で自宅にいたが、家族との関係でしんどくなり、電話の支援で何とか体調が保てた」という人もいました。電話では作業内容や体調の確認をしましたが、メンバーからはマスクが手に入らない不安、感

染の危険があるがパチンコに行かずにいられないなど、多岐に渡る不安が聞かれました。コロナの不安から病状が悪化し来所できなくなった人もいました。対面での支援の必要を感じて自宅に訪問したり、自宅近くで待ち合わせて話をすることもありました。

一方、通所し続けた人は、自宅にこもることでのしんどさや生活リズムを乱すこと、孤独感から体調を崩すことを懸念しての選択でした。

コロナ禍に関わらず、通所できず、不安や孤立を感じやすい状況が長期間続けば体調を崩すリスクは高まります。人とのつながりを確保し、安心して過ごせる場である通所事業所の運営。来所できない人とも関係を途切れさせず、スムーズに利用再開できるような支援。平常時から必要な支援として自宅訪問や通院同行などをしてきましたが、非常事態を通して、スタッフや事業所とつながることが体調や生活を維持する一助となることを再確認しました。コロナ収束の見通しは立ちませんが、非常時に必要な支援について、法人全体でも議論を深めていきたいです。(慶伊里衣子)



Reports

研修部

初の試み!

Zoomでゆいの会職員研修

今年度2回目の職員研修が9月22日(火)にあり、21人が参加しました。コロナウイルス感染予防のため、全体では集まらずに4つの事業所(さわやぎ・D-PORT・ほすと・こもれび)に分かれ、「Zoom(ズーム)」(5面下参照)を繋いで全体研修を行ないました。

今回は『メンタルヘルス』をテーマに、『こんな資源・事業があれば、こんな支援ができるかも!』と題して、各スタッフが事前に素晴らしいと思う既存の取り組み・実践を調べ、1人ずつ発表しました。各々の発表内容を元に、ゆいの会でも取り入れたいことなどを各事業所で自由に意見交換し、Zoomを介して全体で共有しました。ゆいの会が「地域の中で活動する」とはどういうことか今一度考え、今後どんな活動を展開していきたいか、スタッフ1人ひとりの関心や思いを知る機会となりました。

また、法人内ではZoomを活用した初めての

研修でしたが、「他の事業所のスタッフと顔を会わず機会が減っているので、画面を通してでもお互いの顔を見ることができて嬉しかった」「開催できていない他の会議でも活用してみたいと思った」という声がありました。



画面をスクリーンに映しました(D-PORTにて)

コロナ禍において全体で集まることが難しい中、1つの選択肢としてZoomのようなツールを上手く活用していくことが今後は求められるのではないかと感じます。試行錯誤しながらも「参加して良かった!」と思ってもらえる研修を、今後も企画していきたいです。(藤田真衣)

くらし部

防災訓練と備品チェックを恒例に



くらし部の防災班では、緊急時に迅速に対応できるように様々な取り組みを行なっています。その中の一つとして、毎年防災訓練をしています。今年は、防災の日(9月1日)に先駆け8月31日に行ないました。地震発生を想定して通所系を中心に7事業所が参加しました。災害状況の設定は、日常生活を送る上で想像しにくいことを体験できるよう、以下のようにしました。

- ・ふだん食事を作っている時間帯に、ガス、電気が使えない
- ・買い出しに行ってもお客さんが集中し商品が売っていない

防災訓練後「電気、ガスが使えないと作る料理に限られる」「水が使えるのがまだ救いだっただ」などの感想がありました。

また、道路の寸断、公共交通機関の不通などによってメンバーが事業所にとどまらざるを得ない



防災備品チェックリスト

事態を想定し、新たにランタンや防寒・保温ができるサバイバルシートなどの防災備品を購入しました。併せて防災備品のチェックリストを更新しました。

来年度以降は防災週間に合わせて定期的に見直し防災意識を高めていきたいです。(國友叶恵)